



一般社団法人 人間力認定協会

理解は支援の第一歩！

支援の輪を拡げよう！

累計受講者は延べ二万名

小学校や療育施設でも導入！

お陰様で当協会の認定資格を受講された方は延べ二万二千名となりました。これも皆様方のお陰です。心より御礼申し上げます。

最近では愛知県にある小学校にSSTスペシャリストの教材を提供することになったり、全国各地の療育施設にて数十名、数百名規模での団体受講があったりと、これまで以上に多方面からの需要がございました。更に、専門学校や高等学校の授業でも、児童発達支援士の教材を利用したいという声を多数いただいております。(現在検討中)

資格を認定し始めた当初は、受講者の大半が発達障がい児の保護者の皆様でした。そこから、教育関係者、医療関係者

介護関係者などに普及していききました。そして今、高等学校や専門学校、大学へと広がりを見せています。学校関係に当資格が普及していけば、就職活動時に「児童発達支援士」が現在よりも更に有効なものになるでしょう。それが受講された皆様方への協会からの恩返しであると捉えています。

当協会は今まで皆様の声によって様々なサービスが生まれてきました。LINEでの動画配信、療育エピソードの共有、受講者専用サポート窓口の開設など。全ては支援の輪を拡げるためです。

共に世界を変えましょう。これからも皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

理事長コラム

「禍福(かふく)は糾(あざな)え
る繩の如(ごと)し」「人間万事(ばんじんじ)
塞翁(さいおう)が馬(うま)」とい
われるように、良いことと良くないこ
とは代わる代わる起こるもの、という
見方があります。

この教えは、悪い時は「次はきつと
よくなる」という未来への希望」につな
がりますし、良いときには「おごり高
ぶらないように」という戒めにもなり
ます。

しかし、私が皆様にお伝えしたいこ
とは「この世に悪いことなど一つも起
こらない」ということです。人生で起
きているすべてのことが自分のために
起きているのです。そう信じ込むこと
が大切なのです。そのように捉えるこ
とができれば、世界の見え方は一変し、
あらゆる禍福から人生の黄金律を学び
取ることができるよう。

一般社団法人 人間力認定協会
代表理事 井上智之



ご協力を頂きました皆様、誠にありがとうございます 療育エピソードの公開をスタート



療育にまつわる体験談

皆さんは「エビデンス」を重要視されますか？最近では、根拠という言葉の意味のエビデンスという言葉を目にするようになりました。

資格の認定を行う私どももエビデンスは当然意識しております。しかし、皆様も子育てや子どもへの指導を通して感じているはずで「子どもは千差万別だ」と。エビデンスだけに着目してしまおうと、そのやり方が目の前にいる子どもにもあわなかった場合に、他の方法論が無くなってしまうに接したらよいか分からなくなってしまうでしょう。そこで役立つのが皆様方の体験談であり経験談なのです。

個々人の体験や経験ですから、そこにエビデンスがあるとは言えません。ただ

し、少なくともそのやり方で一名は変わったという事実があるわけですね。そのような事例がもし二十個あれば二十パターンの働きかけが出来るようになります。有効なエビデンスを二十探そうと思ったらかなり大変です。さらに見つけたエビデンスをしっかりと理解しようと思つたら、なおさら大変でしょう。

私どもの協会にはすでに二万名を超える受講者がおられます。皆様の経験談を集積することで、多くの子どもや保護者、支援者を救いたいと思ひ、療育エピソードの募集と公開を始めました。百を超える事例を紹介しておりますが、今後さらに増やしていきたいと考えています。

皆様のこれまでの経験を共有して頂きますよう御願ひ申し上げます。

小学校の通級クラスにて当協会の教材導入



愛知県知立市立知立東小学校
通級クラス

児童発達支援士を取得され、SST スペシャリストの受講をされた方よりご連絡をいただき、愛知県知立市立知立東小学校の通級クラスにて SST スペシャリストの教材が導入されることとなりました。ご担当者様の声をご紹介します。(通常は有料、無料問わず団体での導入は禁止しております。ご希望の方はお問い合わせください)

Q. 今回「SST スペシャリスト」の教材を導入しようと思った理由は？

A. SST の指導に苦手意識があること、担任や保護者から聞いた児童の特性に適した支援に合う教材がすぐに見つからないこと、この2点から以前より本を読んだり研修会に参加したりしてきました。それでもなかなか難しく教材を探していました。協会のテキストを読むと、どのような特性の子どもに使うとよいか、この教材を使ったことでどのような力がつくかの説明があったので、読みながらこの教材は、この子に使うなど付箋をつけて勉強ができました。

Q. 現場で児童発達支援士の知識がどう役立っているか教えてください

A. 傾聴、立腰など授業で使っています。すぐにできませんが、姿勢保持の難しい子も通級の時間は、毎回数分だけでも姿勢良くを合言葉に取り入れています。

Q. 発達障がい児を育てている保護者の皆様へメッセージをお願いします

A. 私自身発達障がい児の保護者です。今ほど知られていなくて、躰ができていない、乱暴で落ち着かない子が公立の普通の学校にいていいのかなど言われたこともありました。育てにくくても相談の窓口も少なくてデイサービスも今ほどなくて困りました。何か理由があって怒っているとわかっているも当時は、なかなか聞いてあげれずいきなり怒ってしまった自分でした。子育ては大変だけどこの子たちは、とても素直でピュアで繊細です。困っている子、困っている保護者が笑顔で子育てできるような力になりたいと思っています。困ったらヘルプを出していいですよと伝えたいです。

拡がる認定支援士の輪

新たにご登録いただいた認定支援士のご紹介

(2022.9.1～2023.2.28 ご登録者)

個人情報保護のため、ぼかしを入れています

(他匿名希望 数名)

認定支援士より頂いたメッセージをご紹介します

(全員のメッセージを紹介しきれないため、今回は一部の支援士のみご紹介します)

東エリ
ア

団体名なし

宇井ルミさん

―支援をして辛かった事は子どもが自分自身を否定することです。「僕はどうして普通に生まれなかったの」と聞かれた時が一番辛かったです。

―知識を習得して変化は？

診断名にとらわれず、子どもの特性を理解して、困りごとや不安を解消できるように具体的な対策(対応)が出来るようになりました。テキスト全般をとおして、発達障がいの子どもにも支援をする人にも寄り添い、境界のない社会を目指す強い想いが伝わりました。私も発達障がいの子を持つ親として同じ想いを持ち続けていきたいと改めて感じました。

東エリ
ア

団体名なし

匿名希望さん

―知識を習得して変化は？

今までは、お友達のお母様にお詫びをしたり学校と話し合ったりなど、すべて事が起きてからの対応でしたが、資格の勉強をし理解を深めてからは前もって小学校の先生やお友達の親御さんに適切な対応をお願い出来る様になり家族だけでなく多方面から息子に対して正しい方法でのアプローチが出来る様になった事が改善された点です。

―支援を行う上で大切なこと

『絶対的な味方でいてあげる事』発達障がい児だからと言うより、子どもたちは安心できる場でこそ伸び、変化していくものだと思います。テクニックや声かけやトレーニングを活かす為にもまずはこちらが、子どもの安心できる場所、自分が自分で居てもいい場所になってあげる事が大切だと私は思います。

東ア
関エリ

団体名なし
柴崎 久美さん

「悩んでいる方へアドバイス
はありますか？」

悩んでしまうのはごく当然のことだと思います。しかるべき機関、人へ相談することは躊躇しないでほしいです。そして、我が子がこれから関わるたくさんの人に、正しく理解してもらおう働きかけをしてほしいです。子育てにおいてはお受け身にならず、根気、諦めない気持ち、そして決して不幸ではない、幸せなんだという気持ちで前向きな姿勢で取り組んでほしいと思います。

東ア
関エリ

団体名なし
小野 文乃さん

「支援をして辛かった事は
衝動的、多動、他害をする

園児がおり、突発的に衝動的に他害をしてしまったときどう気持ちを受け止め、適切な援助をすればいいのか困りました。保育者に対しても暴言、暴力をするので適切な対応がわからない時です。

「悩んでいる方へアドバイス
はありますか？」

支援したこと、子どもが生き生きと自分らしく生きていくことができ、支援が適切であったときやりがいを感じることができ、失敗と成功は同じ価値しかない全ては過去。失敗は次の経験への力になるのだから諦めずに進みましょう。

中ア
関エリ

団体名なし
匿名希望さん

「資格取得のきっかけは？」

我が子三人が発達障害児です。子どもたちは通常級で過ごしていたのですが、担任の先生もお友達も、もちろん本人もとても苦労しました。今、我が子は楽しく学校に通っています。その経験を活かして、困っている子どもたちの支えになりたいと思います、今は小学校の介助員として子どもたちのそばにいます。その中で、もっと専門的な知識が欲しい、勉強したい！と思い、資格取得を決めました。

「支援を行う上で大切なこと

寄り添い、受け止めることが大切だと思います。どんなにまづいことでも、まづ受容してから。わかってもらえてるって、誰もが嬉しいことです。

～会員様の活動サポート～

活動団体やWEBサイトの紹介

皆様の活動を応援するために、当協会のWEBサイトにて皆様の団体やブログ等をご紹介します。もしご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください！支援の輪を共に広げてください！

(活動団体のご紹介事例)

